

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立小中一貫校芙蓉校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫校としての教職員の意識は高まってきた。小中間の相互乗り入れ授業や特別支援学級への支援、児童生徒の情報共有などを通して、全職員による児童生徒の共通理解もすすんできた。</li> <li>・「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指し、児童生徒がより主体性をもって学習に取り組むために「話し合う活動」を位置付けた授業実践に全職員で取り組むことができた。</li> </ul>
2 学校教育目標	「学び ふれあい 伸びゆく芙蓉」
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的・対話的で、深い学び」の実現に向けた授業改善を進めることを通じて、児童生徒の「思考力・判断力・表現力」の育成と学力の向上を目指す。</li> <li>・児童生徒の個性や特性に寄り添い、全職員が協働して特別支援教育に取り組む体制を強化する。</li> <li>・業務改善・教職員の働き方改革を推進する。</li> </ul>

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組			具体的取組		実施結果		意見や提言			
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
●学力の向上	○児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業の実践	○「話し合う」活動を通して、「考えを伝え、自分の学習に取り入れることができた」と考える児童生徒を85%以上にする。	A	・授業づくりのステップ1・2・3を踏まえ、一単位時間の授業の中に「話し合う」活動を設定する。 ・校内研究における論理的な思考力・判断力・表現力の育成をめざした授業づくり及び授業を支える環境づくりに取り組む。	A	・アンケートの結果、「話し合う」活動を通して、「考えを伝え、自分の学習に取り入れることができた」と考える児童生徒90%を達成することができた。 ・引き続き授業の中に「話し合う」活動を設定していきたい。	・児童生徒のアンケートの結果、「話し合う」活動を通して、「考えを伝え、自分の学習に取り入れることができた」と考える児童生徒92.4%。職員においても「話し合う活動を設定した授業づくりを行っている」90%。話し合う活動の設定率は上がり、児童生徒の有用感につなげることができた。	A	・「話し合う」活動の有用感を児童生徒がもてるようになっている。	○研究部 ・校内研究各部
	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて、肯定的な回答をした児童生徒を85%以上にする。	A	・各学級でグループエンカウンターを実施したり、互いを認め合い感謝し合う言葉掛けの実践を促したりすることを通して、自己肯定感を高める。 ・人権集会後に振り返りや感想等を書かせ、他者の意見に触れさせ、多様な考えがあることを尊重させる。	A	・「将来の夢や目標をもっている」について、児童・生徒対象の聞き取りを2学期に実施予定。 ・教科指導や総合的な学習を通して、将来のキャリアへの見通しをもたせる教育活動を引き続き継続する。 ・1学期の体育大会では、活動の見通しをもち、自分のめあてを立て、それに伴った学びの振り返りを行うことができた。2学期も文化発表会、その他学年行事ごとに、活動の見通しと学びの振り返りを計画的に行う予定。	・学校評価アンケート「私は道徳の時間に自分や他の人の気持ちについて、真剣に考えています。」に対して約9割の子どもが「そう思う」または「どちらかというとそう思います」と答えることができた。 ・佐賀東高校による人権劇には、主人公の気持ちに寄り添う感想が多数見られた。	A	・児童生徒と先生方との関係は、垣間見える会話や姿勢等でとても良い信頼関係にあると感じる。町民に対しても挨拶もよくする。 ・達成している。日常生活に生きているか知りたい。	○道徳教育推進教員 ・人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○問題行動やいじめの防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取り組み事業対処等)について組織的に対応できると回答した教職員を90%にする。	A	・5月までにいじめの認知・認知に対する対応マニュアルの見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修を年に二回以上行う。 ・月一の生徒指導協議会では、必ずいじめ事案と対応について情報共有する。	A	・小学部、中学部ともに毎月「心と生活アンケート」の実施。月に一回のスクールカウンセラーによる、カウンセリングを行い、児童生徒の実態把握に努めている。 ・毎月、小中合同の生徒指導協議会を開催し、児童生徒の生活の現状や課題を共有したり、配慮を要する子ども様子を報告したりしている。	・1年間定期的に「生活アンケート」を実施することができた。いじめ事案は迅速な対応解決に当たり、その後も継続的に観察を続けている。事案によっては、SCの助言を交えながら、次年度への引継ぎの準備を行っている。 ・小中合同生徒指導協議会で、毎月欠かさない子ども様の共通理解を徹底に言い、校種を問わず日頃の声掛けを意識して行うことができた。	A	・職員間の情報共有がいじめ対応によく生きている。	○生徒指導担当 ・教育相談担当 ・保健主事
●◎児童生徒が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれる」と回答した児童生徒80%以上にする。 ●◎「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒を75%以上にする。	A	・児童生徒の資質・能力を育む授業づくりに関する校内研修等を実施する。 ・各体験活動では、児童生徒に活動の見通しと学びの振り返りを行う活動を仕組む。	A	・「将来の夢や目標をもっている」について、児童・生徒対象の聞き取りを2学期に実施予定。 ・教科指導や総合的な学習を通して、将来のキャリアへの見通しをもたせる教育活動を引き続き継続する。 ・1学期の体育大会では、活動の見通しをもち、自分のめあてを立て、それに伴った学びの振り返りを行うことができた。2学期も文化発表会、その他学年行事ごとに、活動の見通しと学びの振り返りを計画的に行う予定。	・「先生はあなたのよいところを認めてくれる」と回答した児童生徒の割合は81.5%であった。 ・「将来の夢や目標をもっている」と回答した児童生徒の割合は84.7%であった。 ・キャリアパスポートに、体育大会と文化発表会、その他学年に応じた行事や学びの振り返りを記録し、蓄積していくことで、学んだことを振り返りながら、新たな学習や生活への意欲につながり、将来の生き方を考えたりすることができた。	A	・自己肯定感の高い子どもや将来に希望を持っている子どもが育っている。 ・認めてくれていると思う子どもの割合がもう少し高くなってほしい。 ・地域の行事に積極的に参加してもらっている。	○キャリア教育担当 ・教務主任	
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○「健康に良い食事をしている」児童生徒を85%以上にする。	B	・給食だより、保健だよりを発行する。 ・養護教諭及び学校栄養職員と連携した食育に関する授業の実践を行う。 ・給食だよりや学校HPの「献立紹介コーナー」等を活用し、保護者に対し、望ましい食習慣や食事メニューの紹介と啓発を行う。	A	・献立表や毎日の「今日のお話」で、食や健康に関する豆知識や望ましい習慣を発信できている。 ・食育に関する授業実践の計画を立て、実践するとともに研修を深めている。	・健康な体になるために、何でも食べようしたり、よく飲んで食べようとしてきた児童が90%を超えている。保護者アンケートでも「学校は食の大切さについて指導したり、できるだけ好き嫌いなく食べられるように支援したりしている」と答えた方は91%であった。 ・給食だより、保健だよりを毎月発行し、児童、保護者に啓発を行うことができた。養護教諭及び学校栄養職員と連携した食育に関する授業の実践を行うことができた。	A	・学校の取り組みは素晴らしく頭が下がる。本来好き嫌いなく何でも食べられることやマナーは家庭の責任。 ・給食と一緒に食べることで、栄養について共に学べた。	○食育担当 ・保健主事 ・学校栄養職員
	○9年間を見通した生活習慣の形成	○基本的な生活習慣を身に付けている児童生徒を85%以上にする。	A	・小学部は「生活の四つの約束」、中学部は「生活の五つの約束」の趣旨を児童生徒・保護者に説明し、「立派」等系統性をもって指導を行う。 ・各学期に生活習慣アンケートを行い、その結果を元々に家庭と連携して改善を図る。 ・教室内のロッカー、机の引き出しなど、整理整頓を日頃から意識するように声掛けを行っている。また、中学部では、無言清掃を心がけさせ、落ち着いた環境での清掃活動を通して、望ましい清掃の仕方を学ばせている。小学部では、清掃前に、各班で、話し合いの場を設け、集中して清掃に取り組めるようにしている。	A	・毎月の生徒指導協議会で、小学部、中学部共に生活の約束事項を確認、共通理解をし、全職員で系統的な指導を行っている。毎月実施する学部朝会で、月の生活の約束等の話を児童・生徒に行っている。 ・月に一回の生活アンケートを実施し、問題がある案件については、生徒指導協議会と共通理解を図り、問題解決に向けて、関係機関や家庭との連携して、改善を図っている。 ・教室内のロッカー、机の引き出しなど、整理整頓を日頃から意識するように声掛けを行っている。また、中学部では、無言清掃を心がけさせ、落ち着いた環境での清掃活動を通して、望ましい清掃の仕方を学ばせている。小学部では、清掃前に、各班で、話し合いの場を設け、集中して清掃に取り組めるようにしている。	・小学部、中学部ともに「生活の約束」については、おおむね達成できた。子どもたちの生活の様子で、気になったり、指導の必要性を感じた時は、生徒指導協議会や連絡会で課題を共有し、対応することができた。 ・生活アンケートの継続実施で、気になる子どもへ早期に対応することができた。必要に応じて管理職、保護者とも連携しチームでの対応につとめた。 ・教室内のロッカー、机の引き出しなど、日ごろから整理整頓を意識するように声掛けを行った。小学部・中学部共同で地域の清掃活動も行った。	A	・小中一貫のよさが発揮されている。 ・地域での私生活、あいさつ、態度等は、申し分なく成長しているの而感到している。	○生徒指導担当 ・清掃担当
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	A	・業務記録票をもとに職員全体及び個人の時間外業務について、月毎にふり返る場を設け、改善状況を振り返る。 ・年次休暇の積極的な取得を呼びかけ、年間平均10日を目指す。	A	・業務記録票をもとに職員全体及び個人の時間外業務について、月毎にふり返る場を設け、改善状況を振り返っている。 ・年次休暇の積極的な取得を呼びかけている。	・年度当初に比べて、月45時間以上超過の職員は減少している。時間外業務の多い職員については、改善策を検討した。平均として45時間以上の超過は月のみであった。 ・長期休業を中心に年次休暇の取得を推進し、年間平均10日以上取得することができた。	A	・児童生徒と気持ちよく接し、指導したために改革、改善は必要不可欠。児童生徒に負担がないような計画と工夫が必要。 ・なかなか難しい問題だが業務効率化を図って改善していった。 ・全教職員の10日以上を目指すべきではないか。	○教頭 ・副校長
	○年間を見通した業務遂行の改善	○「今年度及び次年度を見通した業務遂行を図ることができた」と回答する教職員を90%にする。	A	・一貫校の職員体制を生かし、中学校からの乗り入れ授業を二教科以上行う。 ・行事等の振り返りをもとに、部活動完全下校時刻の見直しや行事内容の精選を三項目以上行う。	A	・一貫校の職員体制を生かし、中学校からのサポートができています。 ・行事等の振り返りをもとに、部活動完全下校時刻の見直している。 ・授業時数の再考を行っている。	・国の動向等を踏まえながら、授業実施時数の把握を行い、標準時数をベースとした授業実施を行うことができた。 ・小中合同の職員会議にて、児童生徒把握や授業準備の時間確保に向け、年間の行事の見直しと次年度の校時表を提案ができた。音楽、図工、書写において、中から小への乗り入れ授業を実施することができた。	A	・一貫校の特性が指導体制によく現れている。 ・見直しをもった業務遂行をできなかった職員の原因を分析するべきではないか。	○副校長 ・教頭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組			具体的取組		実施結果		意見や提言			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
○特別支援教育の充実	○小中教職員の共同による特別支援体制の充実	○特別支援学級に在籍する児童生徒だけでなく、困り感をもっている児童生徒全ての学習機会を保障するために、意識をもって支援に当たる教職員100%を目指す。	A	・授業の乗り入れをはじめ、小中の枠を超えた積極的な関わりと指導・支援を推進する。 ・特別支援教育に関する研修会を、ミニ研修を含め年3回実施する。 ・入級児童生徒及び困り感をもつ児童生徒の保護者との面談を計画的に進め、具体的な支援、取り組み内容を保護者に説明する。	A	・毎月の生徒指導協議会で、小学部、中学部共に生活の約束事項を確認、共通理解をし、全職員で系統的な指導を行っている。毎月実施する学部朝会で、月の生活の約束等の話を児童・生徒に行っている。 ・月に一回の生活アンケートを実施し、問題がある案件については、生徒指導協議会と共通理解を図り、問題解決に向けて、関係機関や家庭との連携して、改善を図っている。 ・教室内のロッカー、机の引き出しなど、整理整頓を日頃から意識するように声掛けを行っている。また、中学部では、無言清掃を心がけさせ、落ち着いた環境での清掃活動を通して、望ましい清掃の仕方を学ばせている。小学部では、清掃前に、各班で、話し合いの場を設け、集中して清掃に取り組めるようにしている。	・9学年の縦割り班による学校行事やふれあいランチなどでの指導・支援、小学部特別支援学級児童への高学年、中学部教員による教科指導、中学部教員による音楽・図工の授業等において、小中の枠を超えた指導・支援の取り組みができた。 ・特別支援教育に関する校内研修会を7月27日に2回実施した。また、特別支援コーディネーターの研修で得た資料を全職員に配布し、支援の手立てを参考にした。 ・困り感を持った児童生徒の支援の方向性について保護者と共通理解をはかり、入級に向けての会議を開いたりすることができた。	A	・職員が一丸となって支援を要する子どもに当たっている様子が分かる。有難い。	○特別支援教育Co

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の学びには、成長がみえている。児童生徒のさらなる自主的な学習姿勢や探求心を育ていけるように、ICT等の活用スキルアップを図ったり特別支援教育体制をさらに整えたりしていく。</li> <li>・児童生徒との関わる時間の確保、教材研究に充てる時間の確保のため、行事の精選や時間の運用に工夫をしていく。</li> <li>・地域との連携が十分にできており、児童生徒にも地域を大切にしている心気が育ってきているので、今後も継続していきたい。</li> <li>・学校評価の進め方としては、数値目標を達成している、場合によっては課題も見えることもあるので記載しPDCAサイクルとしていくアドバイスをいただいた。</li> </ul>
----------------	---